

今までの取組み例

足羽川と足羽山の座学と植物観察会

H23. 11. 27

河川課

日時：平成23年11月27日(日) 10:00~12:00

場所：花月橋下流左岸 河川敷
(足羽公民館、足羽山西口公園登り口)

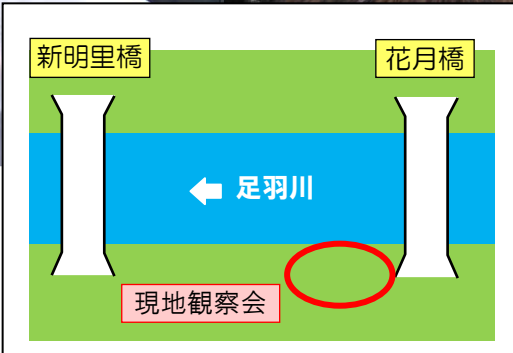
主催：エコプランふくい

後援：河川課

参加者：14名

内容

植物からみた足羽川と足羽山の現状とその問題点を座学と現地観察会を通して参加者と探った。足羽川での現地観察会では、セイタカアワダチソウをはじめとする外来種が繁茂しており、在来種が年々減少傾向にあることが確認され、生物多様性の保全のため、外来種対策の必要性を参加者は感じていた。



福井市中心部を流れる川と足羽山を結ぶ回廊法を採るセミナーが27日、足羽公民館で開かれ、自らが「足羽川と足羽山の植生学」をテーマに講演した。講演では、県立大生物資源学部の赤井寛成研究員が「足羽山の植生について」約500種類の植物があり、タヌキやネズミなどの動物、70〜80種類の鳥類が生息していること、常緑の広葉樹が増加傾向にあること、(常緑樹を切ると)山を若返らせることが、落葉樹主体の「かつての景観を守る」といふことと述べた。

この後、足羽山や熊野神社の社寺林、足羽川河川敷に生育する樹木、植物などを観察した。ガイド役の赤井研究員は、植物の種類などを聞きながら「足羽山をのびのびに育たせるには、市民の皆さんが考える」と呼び掛けた。

熊野神社の社寺林にある樹木の種類などについて説明を受ける参加者＝福井市若杉町

【福井新聞 H23.11.29】